

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第2回 深地層分配係数分科会 (F5SC) 議事録

1. 日時 2003年4月25日 (金) 13:30～17:00

2. 場所 (財) 電力中央研究所 本部 第3会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山 (主査), 油井 (副主査), 藤原 (幹事), 雨夜, 出光, 上田, 大江, 佐々木, 武部, 塚本, 中山, 西, 向井, 山本 (14名)

(代理出席委員) 石井 (苅込委員代理), 宮本 (豊原委員代理) (2名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

F5SC2-1 第1回 深地層分配係数分科会議事録 (案)

F5SC2-2 標準委員会の活動概況

F5SC2-3 圧縮状態の固相に対する分配係数

F5SC2-4 参考資料 (表紙・目次)

参考資料 (1章)

F5SC2-6 参考資料 (2章)

F5SC2-7 参考資料 (3章)

F5SC2-8 参考資料 (4章)

F5SC2-9 参考資料 (5章)

F5SC2-10 参考資料 (6章)

参考資料

F5SC2-参考1 日本原子力学会標準制定スケジュール (案) (原子燃料サイクル専門部会関係)

F5SC2-参考2 深地層分配係数分科会委員名簿

F5SC2-参考3 収着分配係数の測定方法—浅地中処分のバリア材を対象としたバッチ法の基本手順— (参考資料)

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 出席者の確認の結果, 16名の委員中14名の委員と2名の代理委員の出席があり, 決議に必要な委員数 (11名以上) を満足している旨の報告があった。

(2) 前回議事録の確認

事務局より, F5SC2-1により第1回分科会議事録の確認を行い承認された。

(3) 標準委員会等の活動状況報告

事務局より, F5SC2-2により標準委員会等の活動状況報告があった。

(4) 話題提供

大江委員より, F5SC2-3により圧縮状態の固相に対する分配係数に関する報告及び出光委員より圧密系の分配係数の測定例に関する報告があり, 以下のコメントがあった。報告内容及びコメントを念頭に置き具体的な検討を進めることとなった。

- ・ バッチ法と拡散法をつなぐ考え方を標準に織り込んでいくのか。
- ・ 拡散法から分配係数を出すのではなく遅延係数を求めれば評価にそのまま使える可能性がある。
- ・ 公開された論文, データ等により標準を検討する。この場で新しい考え方を出すのではなく, 別途論文等を出して欲しい。
- ・ 今回反映できない内容であっても, あるチームで検討を行い, 別途改訂版に反映させることができる。
- ・ 表面拡散の解釈については, 条件によって異なるので注意が必要である。

(5) 参考資料の審議

a. まえがき・目次

油井副主査より, F5SC2-4により説明があった。

- ・ 1.3は「標準化の適用範囲」→「本参考資料の位置付け」とする。

b. 1章

藤原幹事より, F5SC2-5により説明があった。

- ・ 全体のできあがりを見て適宜書き加えたい。
- ・ 見え消し部分は当面このままとする。

c. 2章

森山主査より、F5SC2-6により説明があった。

- ・ 2.3において分配係数の解説についてしっかりと書いて欲しい。

d. 3章

油井副主査より、F5SC2-7により説明があった。

- ・ 文献を一部追加する。

e. 4章

中山委員より、F5SC2-8により説明があった。

- ・ 検討の結果、目次案を浅地中のものから変更した。
- ・ 影響因子として間隙水を追加すること。
- ・ 先ずは原案に追記し、あとから変更しても良い。
- ・ バッチ法を中心に、カラム法を追加し、表面拡散を考慮して記載する。
- ・ 5章にあわせ4章を変更する必要がある、油井副主査/中山委員にて調整を行う。

＝

f. 5章

油井副主査より、F5SC2-9により説明があった。

- ・ 5.2.2は佐藤氏（JNC）の文献から記載している。コメントをお願いしたい。
- ・ 5章のメインはノウハウであり、各手法の検討状況に関する記述は4章に移すことを検討したい。
- ・ 浅地中の場合のロジックと現状の推奨方法の整合性を明確にすること。特に、カラム法の場合、何が研究者によって異なるのか、何を標準化すべきなのか検討が必要。
- ・ カラム法の試料の最適な形状、大きさの考え方をJNC、原研のデータベースから拾い出す必要がある。
- ・ T-D法、I-D法の図の整合性をチェックすること。

g. 6章

上田委員より、F5SC2-10により説明があった。

- ・ 見かけの拡散係数の算出方法は第5章へ移す。
- ・ カラム法については、標準に誤差の出し方を示しておく必要がある、検討いただきたい。

（6）今後の予定

次回分科会については、7月18日午後の方で調整を行い、別途連絡することとなった。なお、審議要領に基づく目的、適用範囲及び概要等の報告は次々回（第15回）の専門部会にて行うこととなった。

以上